

2016年8月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500 hPa 高度をみると、北半球では極域で負偏差となり、広範囲で波列パターンが明瞭だった。西シベリア、カムチャツカ半島付近では正偏差が明瞭となり、中東東部付近、日本付近、太平洋中部では負偏差となった。偏西風は、広い範囲で蛇行が明瞭で、平年の位置と比べて、ユーラシア大陸東部、カムチャツカ半島付近で北寄りを流れた。月平均海面気圧をみると、日本付近～南海上で負偏差となり、太平洋高気圧の日本付近への張り出しは平年と比べて弱かった。帯状平均した気温は、対流圏では広く高温偏差となり、北半球の中高緯度で明瞭だった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、南シナ海～西部太平洋の北緯10～25度付近、中・東部インド洋赤道域で活発、太平洋赤道域、インド洋北部で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、インドネシアから太平洋を東進した。対流圏下層では、日本の南東海上で低気圧性循環が明瞭となり、モンスーントラフが日本の南まで深まった。太平洋高気圧の勢力は西側で弱く、日本のはるか東海上で強かった。対流圏上層では、亜熱帯ジェット気流はユーラシア大陸～日付変更線にかけて蛇行し、チベット高気圧は平年の位置の北東側で強かった。南方振動指数は+0.8だった。

世界の天候

2016年8月の世界の月平均気温偏差は+0.43°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、2番目に高い値となった。8月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.67°C/100年（速報値）である。

主な異常天候発生地域は次のとおり。

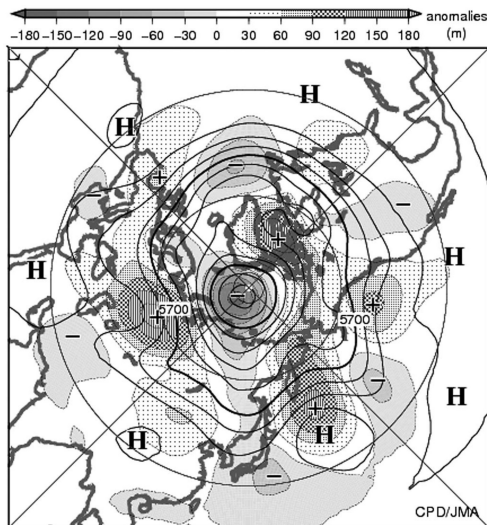
- 九州～中国中部で異常高温となった。
- 低緯度域の各地で異常高温となった。
- フランス南部～イベリア半島東部、アルジェリア北部で異常少雨となった。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ

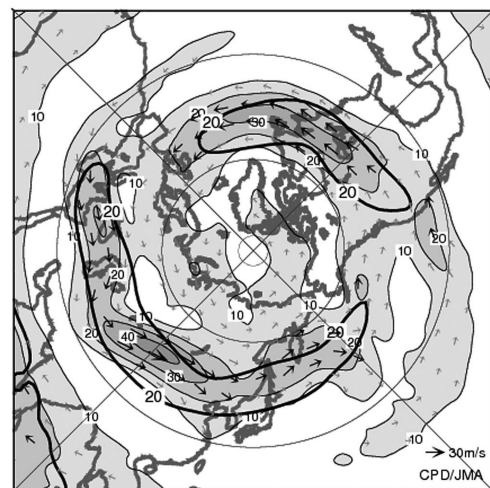
「気候系監視速報」をご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



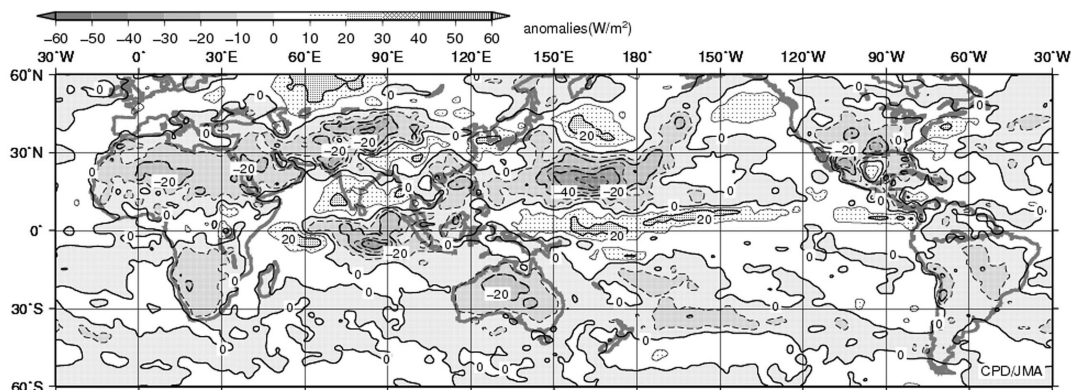
2016年8月の北半球月平均500 hPa 高度及び平年偏差

等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。

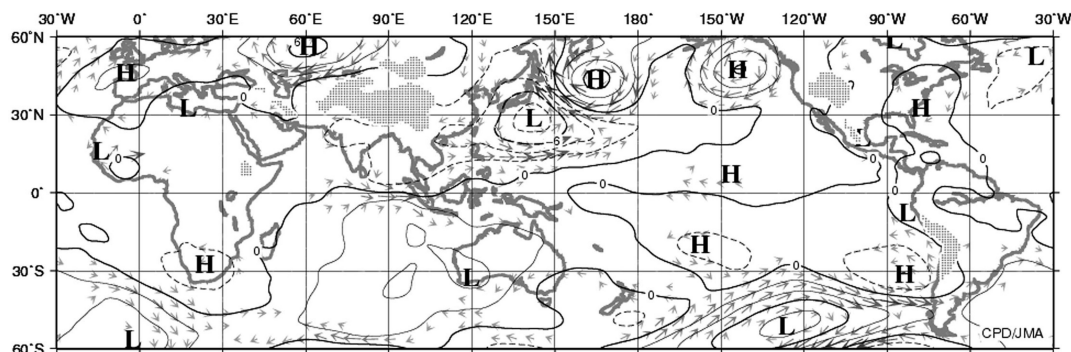


2016年8月の北半球月平均200 hPa 風速及び風ベクトル

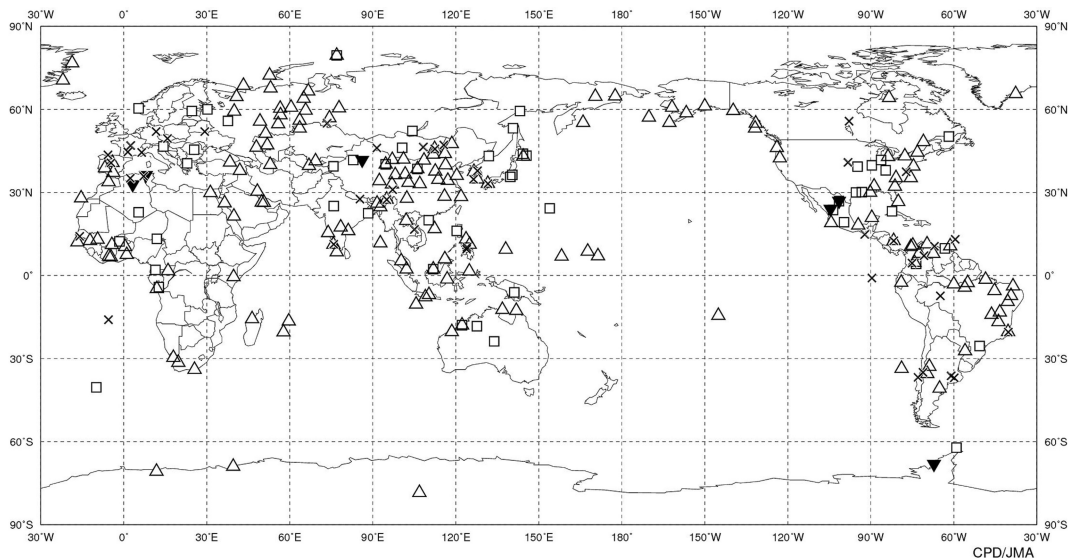
等値線間隔は10 m/s。太実線は平年の風速で等値線間隔は20 m/s。平年値は1981～2010年の平均値。



2016年8月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁 (NOAA) より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981~2010年の平均値。



2016年8月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981~2010年の平均値。



2016年8月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。